

■自然共生園とは

東北地方のきびしい自然と人とのかかわり合いによって育まれた文化や里の自然を体験し、楽しみながら学ぶことができる施設です。再生された里の田園風景、居久根、草原、湿地、牧野など、みちのくらしい動植物が豊かな里の自然を、散歩しながら楽しめます。

■見どころ紹介

～里地の自然～

耕作地・水田・居久根

畑では、ソバや麦、青菜や蕪、豆類など東北地方の食文化にちなんだ作物を栽培しています。春は青麦が風にそよぎ、夏はソバの白い花が一面を覆い、秋は柿や栗が実ります。懐かしさとぬくもりのある、みちのくらしい里地の風景が楽しめます。

「居久根」とは屋敷林のことで、季節風を防ぎ、落葉や焚付けを採るための暮らしに欠かせない林でした。居久根に植えられた、田打ち桜とよばれるコブシが咲くころになると、その年の農作業が始まります。

～草原の自然～

展望野草園・サクラソウ園・放牧区

草が飼料や肥料として必需品であった時代には、里地に草原が維持されていました。草が利用されなくなると草原もなくなり、今では草原特有の動植物が絶滅に瀕しています。ここでは、かつて人の手で維持されていた草原（半自然草原）の再生を目指し、オキナグサ、サクラソウ、カワラナデシコ、キキョウなど、50種類ほどの野草を、この地域のタネから育てて増やしています。

放牧区ではヤギやヒツジを放牧し、ふれあい体験ができます。初夏に刈る羊毛は手仕事体験に利用しています。かつて草刈の時に使用した草泊りを復元してあります。

～水辺の自然～

湿生花園・ヨシ原・スゲ原・ヤナギ湿地林・小川

湿生花園では再生した湿地で、野草をタネから育てています。初夏から秋にかけて、カキツバタ、チダケサシ、クサレダマ、ヌマトラノオ、ミソハギ、コバギボウシ、サワギキョウ、オオニガナ等が咲きます。ヘイケホタルも生息するようになりました。

ヨシ原やスゲ原、ヤナギ湿地林は、かつての水田の跡地です。初夏のヨシ原ではオオヨシキリが子育てを行います。園内を流れる小川ではアブラハヤやスナヤツメ等の魚類、カワトンボ等の水生動物が生息しています。

～樹林の自然～

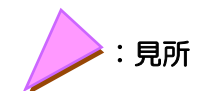
コナラ林・産線樹林・ヤナギ林

コナラ林や産線樹林では、下刈を行って明るい雑木林を再生し、樹林特有の野草を育成しています。春にはルリソウ、クリンソウ、初夏にはニッコウキスゲ、夏にはソバナ、秋にはキバナアキギリ等、四季折々の野草が咲きます。野草の豊かな雑木林の散歩が楽しめます。



.....：秋の花の道草おすすめコース(2,000m)

.....：山羊ふれあい体験場所へのコース(230m)



～展望野草園からの蔵王の眺め～

快晴の日には、展望野草園の頂きから屏風岳、熊野岳など蔵王の山々の眺めが楽しめます。また、東側には、北川を挟んでコナラの雑木林で覆われた里山地区や、こんもりとした釜房山が望めます。里山地区へは、ドックランの傍の橋を渡って、歩いて行くことができます。※現在、里山地区は閉園中です。



～体験施設～

自然共生情報館

自然共生園の受付です。園内の見所や草花を、展示や映像などで紹介しています。草を素材としたクラフト等の体験ができるほか、イベント情報、野の花情報、生き物情報なども発信しています。随時、自然再生や農園活動、手仕事活動のボランティアさんを募集しています。

知恵体験舎

板の間や縁側で、のんびりと休憩できます。体験イベントでは、農作業体験や、ここで採れた作物を使った食品加工体験など、みちのくの自然との共生が育んだ暮らしの知恵が学べます。

●お問い合わせ先：みちのく公園管理センター
電話 0224-84-5991 (代表)

〒989-1505

宮城県柴田郡川崎町大字小野字二本松 53-9

<http://www.michinoku-park.info/wp/>





てくてくマップの 自然共生園



9月



今日はここを観てみよう！

■湿地に咲く花

ミゾソバ (位置D・F)

水田の水路や休耕田等、湿った場所に群生するタデ科の一年草です。蕎麦に似ていることが名の由来ですが、葉の形が牛の顔に似ていることから「うしのひたい」の別名があります。



アキノウナギツカミ (位置D・F)

ミゾソバと同じような場所に生え、咲く時期も一緒に姿もよく似ていますが、葉が細いことや、茎や葉の棘がするどいことが異なります。



ツリフネソウ (位置D・F)

細い柄に吊られた独特の花です。渦を巻いた部分に蜜があり、ゆらゆら風に揺れる花には、飛行が上手なハナバチが訪れます。



今日はここを観てみよう！

赤トンボの仲間

ミヤマアカネ (位置B・I・ほか)

自然共生園でもっとも見かける赤とんぼです。羽にある茶色の帯が特徴です。羽の先端が茶色のものの多くはリスアカネです。



マユタテアカネ (位置B・I・ほか)

やや小型の赤とんぼです。胸は赤くなりません。メスは羽の先が黒くなる個体があります。顔にある大きな鼻の穴のような黒い斑が目印です。



アキアカネ (位置B・I・ほか)

真夏は涼しい山地で過ごし、秋に里地に戻って水田等で産卵します。卵で越冬し、春に田んぼに水が入ると孵化してヤゴになります。稲作に依存したトンボですが、農業等で減少しています。



今日はここを観てみよう！

■湿地に咲く花

オオニガナ (位置B)

自然の豊かな里地の湿地等に生えるキク科の多年草です。宮城県準絶滅危惧種です。「苦菜」の名がありますが、ニガナ属ではありません。花言葉は「私を食べないで」?



■森に咲く花

キバナアキギリ (H)

サルビアの仲間、やや湿った林内に生えます。マルハナバチが訪花すると、雄しべがでてきて、ハチの背中に花粉を付けます。



オオバショウマ (位置G)

樹林のやや湿った斜面などに生えます。平面的な広い葉で、林内の弱い光を受止めます。漢方の升麻は中国産ですが、日本ではサラシナショウマが利用されました。



今日はここを観てみよう！

■湿地や湿った草地に咲く花

ゴマナ (位置A)

明るい湿った草原に生えるキク科の多年草で、ゴマの仲間ではありません。初秋に白い小さな花をたくさんつけます。若葉は山菜として利用されます。



サウヒヨドリ (位置A・B)

湿地に生えるヒヨドリバナの仲間です。葉がヒヨドリバナより細く、輪生するのが特徴です。展望野草園には、ヒヨドリバナとサウヒヨドリとの雑種が群生しています。



ユウガギク (位置C・D・E)

やや湿った明るい草地に生えます。ノコンギクに似ていますが、葉が細くざらつきません。蕾を潰すと柚子の香りがすることが名の由来となっています。



今日はここを観てみよう！

■草原に咲く花

オミナエシ (位置C・E)

万葉集や源氏物語にも登場する秋の七草の一種です。草原の減少とともに消失しています。別名の「粟米花」のような若い実も黄色なので、花が終わっても、いつまでも咲いているように見えます。



ワレモコウ (位置C・E)

草地に生えるバラ科の多年草です。小さな花が集まった卵型の花穂をたくさんつけます。秋の七草とともに、初秋の草原を彩る欠かせない野の花です。



タムラソウ (位置C・E)

花や葉はアザミにそっくりですが、アザミの仲間ではなく、葉には棘もありません。やや湿った草原等に生えます。

